

# 会 議 録

1 会議名 令和2年度 第1回上越市スポーツ推進審議会

2 報告事項（公開・非公開の別）

(1) 令和元年度スポーツ推進事業の実施結果について（公開）

(2) 上越市第2次総合教育プラン後期計画に基づく令和2年度の取組状況等について（公開）

3 議題（公開・非公開の別）

(1) 令和3年度に向けた課題について（公開）

3 開催日時

令和2年9月29日（火）午後2時から4時まで

4 開催場所

上越市市民プラザ2階 第3会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：土田了輔、高橋正弘、加藤徹男、石野秋広、長谷川明寿、齋藤隆雄、

高橋達也、佐藤一徳、和栗勝美、春日清美、滝本篤透、川澄陽子、竹原貞勝

・事務局：スポーツ推進課 田中課長、石澤参事、石田副課長、米川室長（オリンピック・パラリンピック推進室）、小山係長、金子主任、佐久間生涯スポーツ指導員

学校教育課 加納指導主事（学校教育課）

8 発言の内容

○報告事項

【土田会長】

報告事項の「(1)令和元年度スポーツ推進事業の実施結果について」事務局から説明をお願いする。

【小山係長】

資料1 ページから3 ページにより説明

【土田会長】

報告事項の(1)について説明があったが質問、意見等があったら挙手にて発言をお願いする。

質問、意見がないようなので、報告事項の「(2) 上越市第2次総合教育プラン後期計画に基づく令和2年度の実施状況等について」事務局から説明をお願いする。

【小山係長】

資料4 ページから8 ページ及び令和元年度の「第3回審議会（書面会議）での各委員の質問等に対する回答」の資料に沿って説明

【土田委員長】

報告事項の(2)について説明があったが質問、意見等があったら挙手にて発言をお願いする。

【竹原委員】

コロナの関係で中止になったイベントはどのくらいあるのか？

【田中課長】

「高田城ロードレース大会」や「えちごくびき野 100km マラソン」は中止ということで決定をした。ソフト事業も含めて、令和2年度は4月から6月まではほぼ何もできない状態であったが、7月以降は徐々に、平常の状態に戻して進んでいる。

【竹原委員】

イベント等の中止で使われなかった予算は、今後どのようになるのか。

【田中課長】

資料には、執行率、交付率ということで記載してあるが、全て予定通り執行する事業もあれば、マラソン大会のように執行できないものも出てくる。未執行となった予算については市に返還する。

【土田委員長】

他に質問、意見がないようなので、議題に入りたいと思う。

○議題

【土田委員長】

それでは、「議題(1) 令和3年度に向けた課題について」事務局から説明をお願いする。

【小山係長】

資料9 ページから10 ページに基づき説明

**【土田委員長】**

報告事項の(2)について説明があったが質問、意見等があったら挙手にて発言をお願いする。

**【滝本委員】**

現在のコロナ禍を前提に言うが、令和3年度も令和2年度と同じような取り組みを行いながら課題への取り組みが行われるように見える。現在の状況が続くとしたら、事業ができるもの、できないものが出てくると思う。それによって各種団体が体力をなくしていく可能性があるので、予算の組み方をこの1年・2年は各種団体等を支えるようなものにシフトチェンジする必要があるのではないか。

**【田中課長】**

令和3年度の課題に記載したものは、本来であれば今年度順調に進んでいたものばかりである。ようやく下半期にできたものもあるが、引き続き令和3年度の課題であろうと記載したものもある。

ご指摘の各種団体等の体力が落ちると活動が続けられないのではないのかとの懸念については、国等によるコロナ対策としての支援制度がある中で、この間、何度か地域の団体に聞き取りをしているが、金銭的な面も含めて厳しいというご意見をいただいたところもいくつかあった。法人化した団体は常時雇用をしている関係があると思うが、そういった団体では厳しいとの意見をもらった一方、任意の団体については、コロナで活動ができなくなると、それに伴う支出もないので、団体として活動が厳しいという実感がないとの声が大半であったため、市としての事業ではなく国の制度の活用を検討してもらいたいというスタンスで考えていた。

これから令和3年度の予算編成もあるが、いただいたご意見を参考に検討していくが、今のところは国の制度を活用していただければと考えている。

**【滝本委員】**

新型コロナウイルス感染症によって各団体では人材の不足、子供の減少とそれに伴う会員数の減少、事務局の担い手不足などの問題がこれまで以上に出てくる。先ほど持続化給付金の話も出てきたが、これで事足りるかといえば、来年はホストタウンとしてドイツの人や海外の人たちがやってくることを考えると、必ず第三波の懸念が出てくると思うので、それを見越して対策等していただければ安心なのではないか。参考にしてもらえればと思う。

**【田中課長】**

いただいたご意見を参考にこれからの予算編成の際に検討したいと思う。

**【土田委員長】**

他に質問、意見等はないか。

**【竹原委員】**

5年間で5万人の人口が減るという説明があったが、住みやすい所にしていくためには、施設等が充実しているというのも大事だと思うがどう考えるか。また、施設の維持に人件費がかかるのであれば、使う時間だけ空けるなどの方法もあると思うがどうか。

**【田中課長】**

スポーツ施設の再配置の件であるとしてお答えすると、市全体の考え方ということで地域協議会にも説明してきたところではあるが、スポーツ施設の在り方ということで検討し、廃止をすべきではないかという施設については、利用団体や地域と協議をしながら、今年度末の計画策定に向けて協議を進めている。市の人口減少は見込まれており、施設の利用人数は今後も減っていくだろうと思うが、利用人数は減っても団体数はあまり減っていないというような実態もあり、細かい実情も含めて廃止する施設、残す施設を検討している。この間も著しく利用の少ない施設を廃止してきているが、年間利用者が1,000人にも満たないところもあり、人口減少以前の問題として、そもそものニーズがないのではないか、ほかの施設で機能を代替することができるのではないかなど、そう思われる施設の廃止を検討していこうと考えている。基本的には利用者がストレスなく利用できる適正な配置を目指している。スポーツをする機会が失われるような勢いで施設を廃止していくというのではなく、10年かけて人口減少や利用の実態を見据えながら無理のない適正な配置を考えていきたい。施設の経費削減として、例えば、予約の入っていない時間帯を閉めるなどの取組も並行してやってきているが、コストも抑えつつ、なるべく不便のない施設の維持管理をしていきたいと考えている。

**【川澄委員】**

スポーツ推進課の所管施設に、福祉交流プラザの体育館が入っていないが、障がい者・支援学校の皆さんはボッチャの練習、視覚障がい者の卓球などを福祉交流プラザの体育館で練習している。なぜなのか。

**【田中課長】**

福祉交流プラザは福祉課の所管施設となっている。

スポーツ活動ができる施設であっても、施設の主たる目的に応じて管理する部署が異なっている。

#### 【春日委員】

広報上越等でジムリーナを会場とした様々なイベントや体験教室の情報が載っているが、一般の方々はなかなか申し込みをしづらいと思う。各区のスポーツクラブや地域団体に声がけをして、その地域の子供達・保護者の方に来てもらえるように募集してもらおう。そして、例えば今月は浦川原区の皆さんに利用してもらおうなど、施設をもっと多くの人に利用していただけるようなきっかけがあればと思うので色々と知恵を出してもらいたい。

#### 【田中課長】

コロナの影響もあり、ようやくこれから取り組みが行える状況ということで、出来るところから始めていきたいと考えている。

新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていないが、市内小中学生による施設利用学習を予定していた。市内の様々な地域の小中学生からジムリーナを体験していただいて、施設の良さが口コミで広がっていけばと期待していたところである。ご提案の内容についても検討させていただきたいと思うが、遠くから無理やり来てもらうようなことにならないようにしていきたいと考えている。

#### 【佐久間指導員】

今年度はコロナ禍ということで、6月までは人が集まるような教室はできない状況であった。ジムリーナは、多くの時間を体操の競技を専門に利用されている状況であり、教室は競技利用のない時間帯で開催しているほか、3密を避けて、感染予防ができる状況を確保するため、参加人数を減らしている状況である。

小中学生による施設利用学習については、10月から施設の空き時間を活用し、各学校の意向を聞き取りながら、各校1回、施設を体験する学習を実施する予定でいる。今年度は全ての小中学校で利用することは難しいが、できる範囲の中で子供達が体験できるよう取り組んでいる。新しい教室も申し込みがある状況なので、長期的な視点で取組を実施していきたいと考えている。

#### 【土田委員長】

どのような範囲で声をかけていくか、子どもの施設利用は必ず親が申込みをするので、まずは親に知ってもらうことが大事だと思う。そうした発想があれば、子供会などで親子にきていただく活用方法もある。

コロナ禍の中で、安全に配慮しながら活動していただいていることはわかった。

令和3年度については、コロナが収まらない前提で考えるのではなく、収まってからのことを考えていく必要があると思う。

どこが安全なのかという情報はなかなか分かりにくい。この半年間、みんな危険だと怖がっていて、屋外スポーツでさえも開催を躊躇していた。3密を避ける場合に、屋外スポーツは影響があるのかということなど、結局、何が安全なのか分からないため、何となく危険だから行かないようにしておこうということになってしまう。

安全が確保できるという情報があれば、利用してみようかなとなるのではないかと思う。これから冬になり、この地方特有の気候の問題もあるが、その中で運動不足を解消するには、こういう施設が使える、安全だという情報も出していく必要があるのではないかと思う。

他に質問、意見等はないか。

○その他

**【土田委員長】**

皆様の日々の活動の中でのご意見、ご質問などがありましたらお願いしたい。

**【加納指導主事】**

それでは、部活動に関する今後の動向について情報提供させていただく。

資料「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」に基づき説明。

**【土田委員長】**

部活動に関する情報提供について、意見等があれば挙手にてお願いする。

**【竹原委員】**

令和5年度から中学の部活動は地域に全て任せるということか。

**【加納指導主事】**

土日の部活動は地域で行い、平日の部活動は学校で行うものとして、今のところ考えている。どのようになっていくか、今のところ読めない状況である。令和5年度から随時ということなので、市の体制づくりがどのように進んでいくかが大きく関わってくると思う。令和5年度からできない状況も考えられるが、令和5年度を待たずに早期に行ってもよいとの付記もあるので、地域部活動への移行時期については、各自自治体に任せられていると考えられる。

**【竹原委員】**

そうなる和我々もそういう体制を整えなければならないと思うし、早い段階でそう

いう姿勢を見せてもらいたいと思う。

#### 【春日委員】

働き方改革で土日は先生が出ないということだが、スポーツは試合がたくさんある。試合の時はどのような体制を考えているのか。

#### 【加納指導主事】

この通知文を読むと、兼務をして学校の先生が地域のスポーツクラブに所属することは認められている。兼務の体制を今年度中に文科省が作っていくという計画を立てている。学校の先生で休日に地域のスポーツクラブで活動したい方は、そちらに入っただいて子供たちの指導を行うことになる。土日は学校の先生ではなく、スポーツクラブの先生として引率もすると今のところ記載されている。先生も土日は自分の地域のスポーツクラブに入って子供達を指導しなさいという意味も含まれていると思うが、学校としてはおそらく学校のあるところのスポーツクラブに入ってもらい、平日は学校で、休日はその学校を含んだスポーツクラブで部活をしてほしいと願うことになるのではないかと考えている。部活をしたくない先生はしなくてもいい、一生懸命やりたい先生はやっていいと捉えることができる内容になっている。引率等も地域で連れていくが、その中に先生が含まれているということが大いに考えられると思われる。

#### 【石野委員】

中体連として改革を進めている中で、小規模校では団体種目が組めないという実態があり、複数校でチームを編成し、大会に出場するという形に緩和されてきている。ソフトボールは、三和中学校は城東中学校と長岡南中学校と3校で県大会に参加するという形で動いている。しかしそのような広域での複数校の場合、合同での練習がほとんどできないという苦しい状況がある。そういうところのバランスを取りながら、子供達がやりたい種目に取り組めるような体制を進めていきたいが、実際は指導者の確保を含めてなかなか厳しいところである。

文科省の考えているやり方だと、規模が大きい学校はできると思う。地域の人もたくさんいる。一番困っているのは、中山間地域であり、指導者が見つからない状況が見えているので、全国各地で実現できるかという難しい状況が見えている。それでも地域でなんとかしたいという思いを持っている人はたくさんいるので、体制づくりをしていく中で、何とかしたいと考えているところである。

高等学校は学区がなくなり、自分がやりたいスポーツで学校を選んでいる子供もた

くさんいるが、運動だけが学校を選ぶ主目的ではないので、部活動と生涯スポーツの運動を結び付けながら子供達の夢とか進路の実現に向けてのバランスのとり方が難しい状況になっている。

また、部活動以外のスポーツに親しむことが増えてきていることを含めて、学校の部活動の維持が非常に難しい状況になってきていることを補足したい。

#### 【土田委員長】

中学校における現状について、お話いただいたが、他に意見等はあるか。

#### 【高橋委員】

高校に進学する際にスポーツ推薦枠というものがあるが、そこにも関連してくるのではないかと思うが、情報があれば教えていただきたい。

#### 【加藤委員】

県の教育委員会からは、特にスポーツ推薦関係のことは聞いていない。

私立ではスポーツをPRしている高校もあるので、公立との対応がかなり違ってくるのではないかと思う。

新潟市や長岡市、上越市もそうだと思うが、例えば、陸上部の練習は学校ではなく、陸上競技場でやっていると思う。ある学校には短距離の専門家がいるが長距離の専門家がない、また別の学校には、短距離の専門家がないが長距離はいるといった状況の中、陸上競技場に集まって練習することで学校の枠を超えてそれぞれ専門の種目を指導できるような形でやっていることも多い。そういった形が発展する中で、土日に学校の枠を超えた指導体制ができていくことが理想的かと思う。

人口の少ない中山間地域では連携してやること自体が難しい状況もあるので、文科省の計画がスムーズに進むかは、今のところはっきり見えない状況である。

#### 【滝本委員】

今日は情報提供ということであると思うが、参考までに受け皿になるような総合型地域スポーツクラブに情報提供をしていただきたい。私たちも力になればと思っているので、今後議論の中に入れてもらえたらと思う。

来年度以降、台風の目になるであろう内容だと思っている。スポーツに関しては、アスリートという面も含めてすごく重要な人たちを育てていく部分が中学校の部活動であったりするところもあるので、慎重に良い方向性が出せるように様々な分野の方々を巻き込んで検討してほしい。



【土田委員長】

他に意見等はあるか。

【小山係長】

次回の審議会について、公の施設の再配置計画等についてご意見をいただく場として、可能であれば10月に実施したいと考えているが、詳細については、別途連絡をさせていただく。

【土田委員長】

日程が決まり次第、各委員へ連絡をお願いします。

以上で本日の議事を終了とする。

○閉会のあいさつ

【高橋副委員長】

活発なご意見をたくさんいただいた。少子高齢化に伴う諸々の問題等については当然分かっている、いずれ解決しなければならないような問題がコロナによってさらに加速して押し寄せてきているように思う。この状況は、来年以降も続くのかどうか、それによって今後の対応も変わっていかざるを得ない。今まで当たり前に行ってきたことが当たり前に行えない中、どのように対応していくか非常に難しい局面ではあるが、皆さんから様々なご意見を伺う中で、今まで積み上げてきたものを発展的に前に進めていくことができるよう、ご協力をお願いしたいと思う。

9 問合せ先

教育委員会スポーツ推進課企画推進係

TEL : 025-545-9246 (内線 616-1333)

E-mail : sports-k@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。